平成３０年７月豪雨（西日本豪雨）　学生災害復興支援活動
報告書

平成 30 年 11 月 8 日
NARA Will（奈良県立医科大学
学生災害ボランティアグループ）

１．目的
奈良県立医科大学の学生が平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）で大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備町を訪れ、現地でボランティア活動を行うことで復興への支援を行った。

２．実施日
平成 30 年 11 月 17 日（土）

３．主催
ＮＡＲＡＷｉｌｌ 奈良県立医科大学学生災害ボランティアグループ
（代表 医学部医学科 4 年　田中俊志）

４．協力
奈良県立医科大学
社会福祉法人　倉敷市社会福祉協議会　倉敷市災害ボランティアセンター
奈良市総合政策部危機管理課

５．主な行程
近鉄高の原駅 6 時頃集合
JR 平城山駅でメンバーと合流
レンタカーにて移動（第二阪奈道路～阪神高速～近畿自動車道～中国自動車道～山陽自動車道～玉島 IC～倉敷市災害ボランティアセンター）
9 時～10 時ボランティア受付
倉敷市真備町にてボランティア活動
16 時頃活動終了
レンタカーにて移動（倉敷市災害ボランティアセンター～倉敷 IC~山陽自動車道～中国自動車道～名神高速道路～京滋バイパス～第二京阪道路～新名神自動車道～京奈和自動車道）
近鉄大和西大寺駅にて解散

６．会 計
レンタカー代等かかった費用を参加者で負担する。

８．移 動
現地までの往復には、8 人乗りレンタカーを利用する。（運転：田中）
また、高速道路通行にあたっては、災害派遣等従事車両証明書を取得し無料措置を利用する。

９．参加者
奈良県立医科大学（6 名）
医学科 4 年　田中俊志、齋藤正一郎
看護学科 1 年　尾籠七海、堀田真悠、堀江周、山本彩乃

10.活動報告

今回初めての水害に対するボランティア活動ということもあり、事前に装備品などについて下調べの上、防塵マスク・釘の踏み抜き防止板入りの長靴・保護メガネ・ゴム手袋・軍手などを用意して参加した。

ボランティアセンターにて

当日は家の離れから家財道具を運び出す作業を行った。発災当時のまま手付かずの状態だったため、水を含んで重くなった衣服や寝具の運び出しや、家具の運び出しに苦戦した。また、水に含まれた土が乾燥して飛散することで非常に土埃等が多い作業環境となった。福島で見てきたような津波被害とはまた異なった水に浸って流されたという現場に対してだったが、他のボランティアの協力もあり、無事作業を終えることができた。また、ガラスの破片や家具の転倒などの危険があり、事前の装備の準備の大切さや、自らの安全はもちろん、チームメンバーの安全を確保しながら作業する大切さを学ぶ機会にもなった。

長靴を高圧洗浄する様子

また、ボランティアセンターでは赤十字の看護師を中心としたチームを中心に作業後のボランティアに対して長靴の高圧洗浄、消毒、手洗い、うがい、洗顔などを系統立てて行うことで、被災家屋の真菌等に対する衛生的な予防措置が取られており、災害ボランティアの中での医療者として求められるニーズを垣間見ることができた。

手洗いを指導する様子

発災から 5 ヶ月近くたった今でも手付かずの家屋が多くあるのが現状である。また、家財の運び出しはひと段落してきているが、リフォームして住む被災者宅の細かいところの汚れの掃除や消毒がといった被災者からのニーズも多くあるのが現状である。ボランティアセンターには 500 件程度で高止まりするニーズに対して注目が薄れてきていることに対する懸念の声も聞くことができた。多様化するニーズに対応していく為にも長期的な支援が重要であると感じた。当団体では、今後も支援を続けて行きたいと考える。

うがいを指導する様子

被災地の様子